

2019年5月16日

株式会社 富士キメラ総研
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
1番5号 PMO 日本橋江戸通
TEL.03-3664-5839 FAX.03-3661-1414
<https://www.fcr.co.jp/>

広報課 03-3664-5697
<http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>

少子高齢化の進展、東京五輪の開催、EVの普及などを追い風に拡大
ライフ・インダストリー分野の機能性高分子フィルムの国内市場
2022年に3,659億円の予測

2022年予測(2017年比)

バイオプラスチックフィルム市場は8億円(60.0%増)

イーザーピールフィルム市場は85億円(25.0%増)

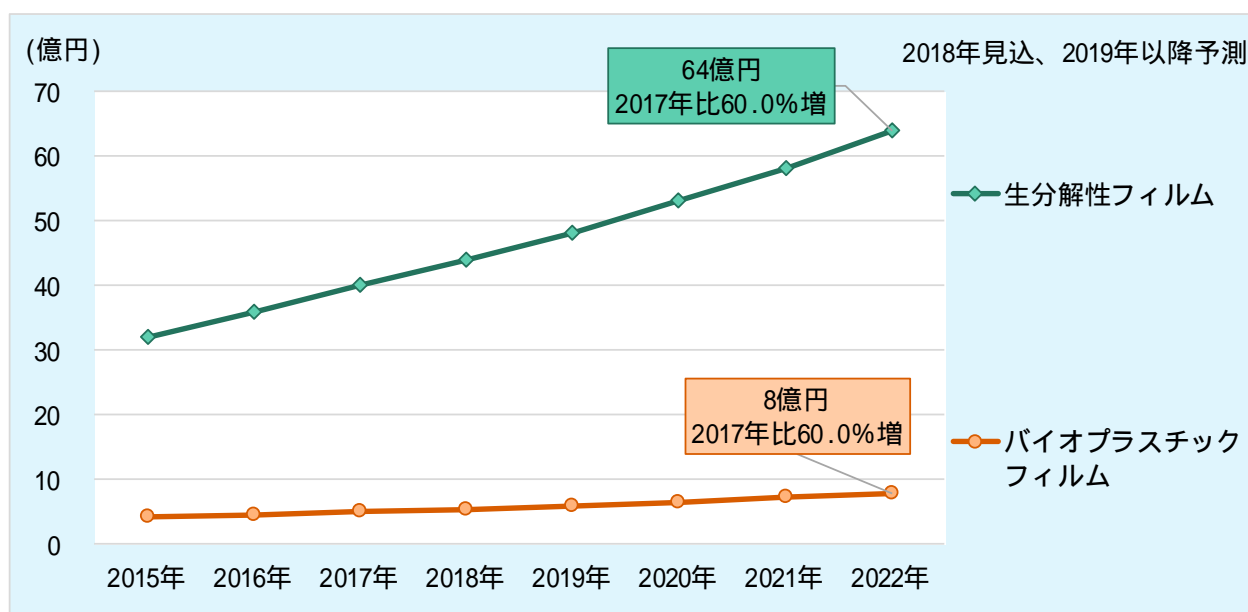
～ともにCVSのPB商品の包材を中心に採用が増加し拡大～

マーケティング&コンサルティングの株式会社富士キメラ総研(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 田中 一志 03-3664-5839)は、少子高齢化の進展、東京五輪の開催、EVの普及などを追い風に拡大が期待される機能性高分子フィルムの国内市場を調査した。その結果を「2019年版 機能性高分子フィルムの現状と将来展望(下巻) ライフ・インダストリーフィルム編」にまとめた。この調査では機能性高分子フィルムのうち、パッケージングや工業・産業分野に使用されるフィルムを対象とした。

機能性高分子フィルム：表面処理や多層化加工、フィラーの添加、ハイブリッド化などで機能を付与したフィルム。

<注目市場>

環境負荷低減を訴求するフィルムの国内市場 バイオプラスチックフィルム、生分解性フィルム



バイオプラスチックフィルムは、バイオPET、バイオPEを使用したフィルムである。CVSなどの流通事業者や食品メーカーなどが環境負荷低減への貢献などのPRを目的に、バイオプラスチックフィルムを包装資材(以下、包材)として採用するケースが増加している。用途としてはバイオPETは食品用包材が中心で、CVSなどのPB商品の包材としても需要増加が期待される。バイオPEは100μmの厚膜品が主体であるが、40μmの薄膜品の展開が始まったことで、食品用包材としての需要が増加している。

生分解性フィルムは、土に埋めると微生物の働きによって水と二酸化炭素に分解されるフィルムである。原料は植物由来・石油由来どちらも展開されているが、石油由来品でも原料をバイオマス化する動きがみられる。市場は

農業用マルチフィルム向けが中心であり、非生分解性のマルチフィルムと比較し高価であることから、ユーザーは大規模農家や企業などが多い。しかし、農業従事者の高齢化もあり、剥ぎ取り作業が不要で、収穫時に機械に巻きこみにくいなどの作業効率性の高さから、小規模農家による採用も増加している。

パッケージング関連の注目フィルムの国内市場 イージーピールフィルム、吸湿フィルム

	2018年見込	2017年比	2022年予測	2017年比
イージーピールフィルム	72億円	105.9%	85億円	125.0%
吸湿フィルム	7.1億円	104.4%	8.2億円	120.6%

イージーピールフィルムは、容器の密封性をもたせつつ、開封は容易にできるフィルムであり、食品容器の蓋で多く使用される。食品容器では個包装化や小容量化が進んでいることから需要が増加している。2018年は災害の多い年だったため、イージーピールフィルムが包装に使用される無菌包装米飯の需要が増加しており、好調が予想される。また、冷凍食品のチャーハンなど、これまで袋が採用されていた加工食品でのカップ型容器の採用などもあり、今後包装・容器の変更による需要も期待される。無菌包装米飯、CVSの総菜や冷凍食品など、電子レンジでそのまま温め、容器から移さずに食べられる商品が増加しており、電子レンジ対応容器向けで今後も拡大が予想される。

吸湿フィルムは、容器内の残存水分を吸収することで内容物の保存性を向上させるフィルムである。容器内に乾燥材を封入する必要がないため、誤飲防止や製造工程の簡略化による生産性の向上などが可能である。体外診断薬キットや薬剤など医薬品向けが中心であり、高齢化による医薬品の需要増加などから市場は拡大が予想される。また、コスト面から採用が見られなかった食品向けでも長期品質保持を目的に高級だしや高級食材で採用され始め、工業用では電子部品の包材として使用されるなど、新規採用も増えている。

< 調査結果の概要 >

ライフ・インダストリー分野の機能性高分子フィルムの国内市場

	2018年見込	2017年比	2022年予測	2017年比
ライフサイエンス	364億円	100.6%	404億円	111.6%
パッケージング	221億円	106.3%	242億円	116.3%
バリアフィルム	772億円	102.0%	831億円	109.8%
土木・建築	1,019億円	108.2%	985億円	104.6%
工業・自動車	126億円	100.8%	134億円	107.2%
エネルギー	605億円	109.6%	1,062億円	192.4%
合計	3,107億円	105.5%	3,659億円	124.2%

市場は、少子高齢化の進展、東京五輪の開催、EVの普及などを追い風に拡大が予想される。

ライフサイエンス市場は、環境負荷低減材料としてバイオプラスチックフィルムや生分解性フィルムの採用が増加している。特に生分解性フィルムを使用する農業用マルチフィルムは作業効率向上に寄与することから農業従事者の高齢化もあり伸びている。このほか通気性フィルムも高齢化により紙おむつでの需要増加が期待できる。

パッケージングやバリアフィルム市場は、食品の包材を中心にトイレタリー用品や医薬品の包材などで安定した需要があり、堅調な拡大が予想される。

土木・建築市場は、東京五輪に関連した建築需要の高まりにより、化粧シートや建築用ウィンドウフィルム、コンクリート補強シートなどが好調で拡大しているが、2021年以降は縮小が予想される。

世界的にも需要の伸びが期待される工業・自動車、エネルギー市場は、EV・HVなどの普及により関連するフィルムの需要も増加が予想される。

<調査対象>

ライフサイエンス		
・テープ剤用離型フィルム ・通気性フィルム	・バイオプラスチックフィルム ・生分解性フィルム	・CNFフィルム
パッケージング		
・方向性フィルム ・イージーピールフィルム ・吸湿フィルム	・脱酸素フィルム ・鮮度保持フィルム ・抗菌フィルム	・におい吸着フィルム (ガス吸着フィルム) ・ストーンペーパー
バリアフィルム		
・アルミ蒸着フィルム ・透明蒸着フィルム ・PVDCコートフィルム	・ONY系共押出フィルム ・EVOH系共押出OPPフィルム ・PVAコートOPPフィルム	・フッ素系バリアフィルム ・ハイバリアフィルム
土木・建築		
・化粧シート ・ラミネート鋼板用フィルム ・印刷メディア用フィルム	・建築用ウィンドウフィルム ・調光フィルム ・遮水シート	・コンクリート補強用シート
工業・自動車		
・EV/HVモーター用 絶縁フィルム ・自動車用ウィンドウフィルム ・加飾フィルム	・転写フィルム ・自動車用熱転写箔 ・自動車ボディー用加飾フィルム ・自己修復フィルム	・CFRP用離型フィルム ・CFRTPシート・テープ ・繊維強化不織布シート(GF・CF)
エネルギー		
・太陽電池用封止フィルム ・太陽電池用バックシート	・LiB用セパレーター ・LiB用ラミネートフィルム	

土木・建築、ライフサイエンス、パッケージング、バリアフィルムは日本市場であるが、左記の一部品目、工業・自動自動車、エネルギー分野については世界市場も併せて調査し、下線で示した。

<調査方法> 富士キメラ総研専門調査員によるヒアリング及び関連文献、データベース活用による調査・分析

<調査期間> 2018年10月～12月

以上

資料タイトル	「2019年版 機能性高分子フィルムの現状と将来展望(下巻) ライフ・インダストリーフィルム編」	
体裁	A4判 279頁	
価格	書籍版 120,000円+税 書籍/PDF版セット 140,000円+税 ネットワークパッケージ版 240,000円+税	
発行所	株式会社 富士キメラ総研 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町1番5号 PMO日本橋江戸通 TEL:03-3664-5839(代) FAX:03-3661-1414 URL: https://www.fcr.co.jp/ e-mail: info@fcr.co.jp	
調査・編集	研究開発本部 第二部門 TEL:03-3664-5839 FAX:03-3661-1414	
この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL: http://www.group.fuji-keizai.co.jp/		